

新潟県納税貯蓄組合総連合会長賞 優秀

納税と恩恵

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 本田 裕

「なぜ税は必要なのか」「なぜ働いて得たお金を国に納めなければならぬのか」

脱税で逮捕されたニュースを見た僕は思った。

国民の三大義務の一つに納税の義務がある事を社会の授業で教わった。日本の税制度が始まったのは奈良時代に遡る。この当時は、稲の収穫を納める租、地方の特産物を納める調、労役の代わりに麻布を納める庸等があった。しかし、これらは貴族の利潤のためであり、農民達は搾取されるだけであった。

では、現代の税の仕組みはどうであろう。

国民は、所得税や住民税等という形で納税する義務が課せられている。また、未成年の僕達も消費税という形で国に納税をしている。消費税は全員に同じ負担割合で、所得税等は年収に見合った額の税率となり、平等な負担となるように課せられている。

では、その税は何のために使われているのであろうか。

身近なものならば、道路の整備、医療費、さらには僕達のような義務教育生のために使われる教育費等がある。小・中

学校で無償で配布されている教科書にも税金が使われている。そのおかげで僕達は家庭状況に関わらず皆が平等に教科書を使い、学校で勉強をすることが出来る。僕は、その事を当たり前のよう感じていた。しかしながら、世界を見渡してみると、貧困を理由に勉強をしたい意欲はあっても、教育が受けられないという現実が今でも見られる。

『学校に行きたい願いが叶わない子供は、五千八百万人。途上国の悲惨な教育事情』という記事を見た。そのような他の国の実態を知り、僕は衝撃を受けた。その背景として、授業料が払えない、教科書が買えないという貧困がある。また国自体も貧困ゆえに学校建設さえ出来ないことが挙げられる。一方僕達の国では、授業料や教科書の無償化、学校の整備等が税金によって賄われている。さらに、平成二十二年から高等学校の授業料の無償化も導入された。これにより、経済的な理由で高校進学を諦めていた人にも進学の道が開けた。これにも税金が使われている。

では、国の税金の歳入と歳出のバランスはとれているのであろうか。今年の五月の財務の発表では、国の負債は過去最高で一兆八千七百兆円になるという。途方もない借金である。各々の家計の場合、収入と支出のバランスがとれるようにやり繰りしている。

どうか国も僕達から集めた税金を無駄なく使ってほしい。僕も税金の恩恵を受けている者として、将来この国を支えるために納税者の義務をしっかりと果していきたい。

国も国民も正しい税の使い方を心掛けるならば、「税は必要なのか」という問いに対する答えは自ずと見つかるであろう。